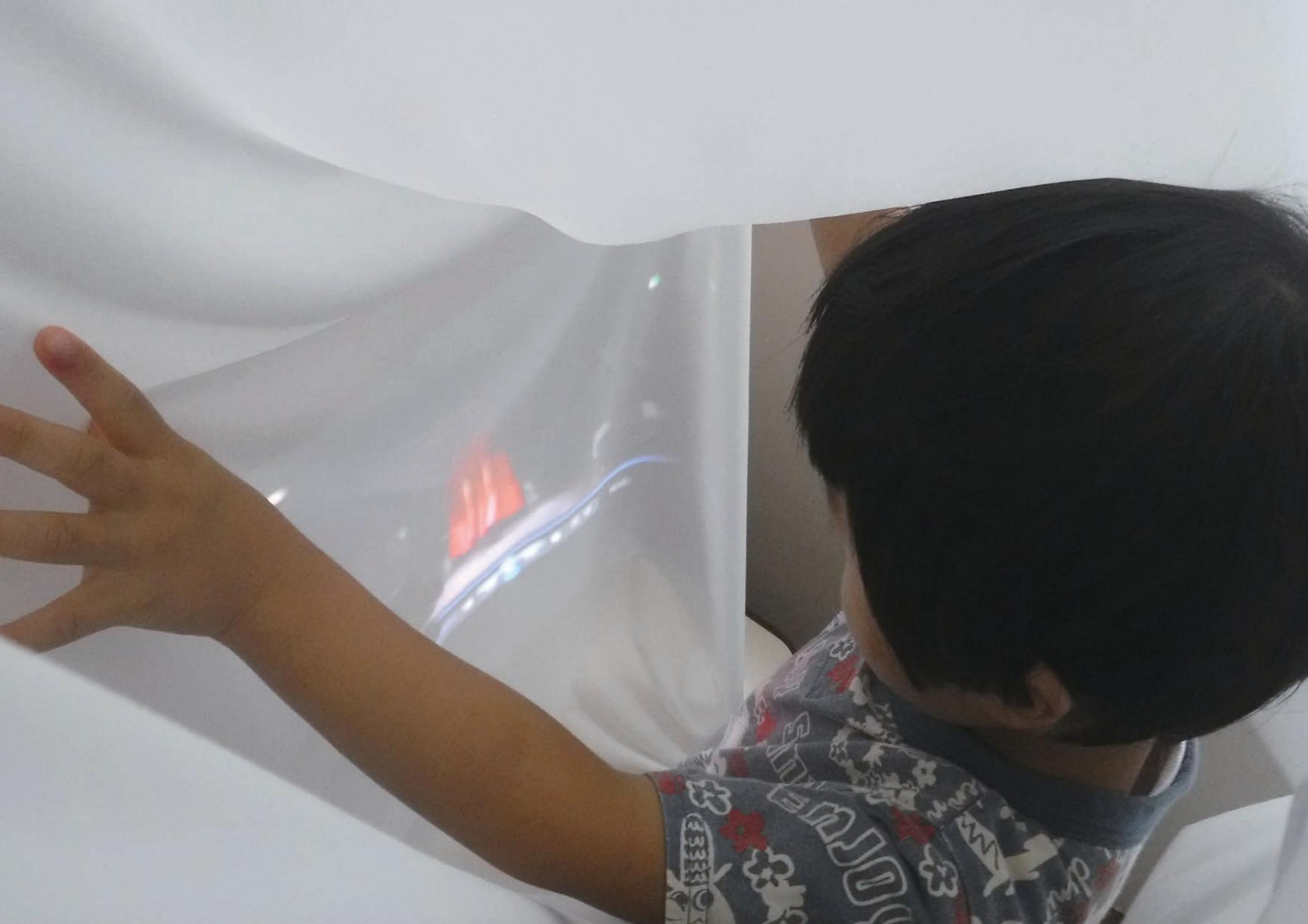


平成 27 年度 高松市芸術士派遣事業活動報告

まよひ
なにする

平成 27 年度 高松市芸術士派遣事業活動報告

まよう
なにする



目次

P.04	ご挨拶	P.24	田井保育所	P.41	前田幼稚園
P.07	高松市芸術士派遣事業とは	P.25	高松保育園	P.42	林幼稚園
P.08	芸術士プロフィール	P.26	敬愛保育園	P.43	川岡幼稚園
P.10	瀬戸内保育所	P.27	西春日保育所	P.44	弦打幼稚園
P.11	扇町保育所	P.28	西光寺保育所	P.45	鬼無幼稚園
P.12	宮脇保育所	P.29	川添保育園	P.46	木太幼稚園
P.13	福岡保育所	P.30	カナン保育園	P.47	川東幼稚園
P.14	鶴尾保育所	P.31	高松南保育園	P.48	国分寺北部幼稚園
P.15	太田保育所	P.32	和光保育園	P.49	国分寺南部幼稚園
P.16	木太保育所	P.33	若葉保育園	P.50	先生に聞きました!印象に残っている子どもの言葉
P.17	古高松保育所	P.34	今里保育所	P.54	平成27年度参加施設・参加芸術士
P.18	屋島保育所	P.35	みのり保育園	P.55	これまでの活動
P.19	林保育所	P.36	城東保育園		
P.20	西植田保育所	P.37	こぶし花園保育園		
P.21	浅野保育所	P.38	れんげ保育園		
P.22	国分寺南部保育所	P.39	さくら伏石保育園		
P.23	牟礼保育所	P.40	初音保育所		



御挨拶

本市が実施する芸術士派遣事業は、平成21年11月にスタートしてから7年目を迎え、保護者の皆様の御理解の下、今年度もこうして市民の皆様に、保育所、幼稚園での子どもたちの創作活動の内容を報告できることを、大変喜ばしく存じております。

市内40か所で展開するこの事業は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては初の試みでございまして、芸術士と保育士や幼稚園教諭とのコミュニケーションも年々深まつてきております。芸術士と保育士・幼稚園教諭との連携から生み出される新しい世界の中で、子どもたちは、芸術に触れる喜びや創作活動の楽しさをより実感しているようでございます。

また、芸術士の方々には、子どもたちと触れ合う中で、保育士や幼稚園教諭とは異なる感性を存分に発揮していただき、自由に表現する手助けを行うとともに、子どもたちが持っている個性や創造力を伸ばしていくけるよう、これまで培われた経験を生かしたかわりや助言などを行っていただいております。

創造都市として飛躍していくこうとしている本市におきまして、様々なアーティストが、それぞれの専門分野を生かして子どもたちに芸術に触れる機会を提供し、共に創作活動に励むことは大変意義深く、感性や創造力豊かな人材育成にも繋がるものと期待しております。

この報告書で、子どもたちがわくわくした気持ちで「きょうなにするん？」と芸術士に問い合わせながら、自由に表現する様子や、活動の中で生み出された様々な作品を御覧いただき、子どもたちの今後の成長を期待していただきたいと思います。

芸術士活動報告に寄せて

芸術士派遣事業は、北イタリアのレッジョ・エミリア市で始まった戦後の幼児教育プロジェクトを真似て、平成21年春に高松市に提案し、その秋、共に模索しながら8人の芸術士で始まり、本年7年目20人の芸術士による活動に成長しました。

美しい瀬戸内の島々がそれぞれ違うように、子どもたち1人ひとりも顔姿以上にそれぞれ違った個性で満ち溢れています。21世紀「子どもたちの100の言葉」と題して紹介されたレッジョ・エミリアからの展覧会は、まさしくこの個性と多様性の尊重を幼児教育のお手本として啓蒙した催しでした。子どもの頃に本来備えているはずの素晴らしい個性の芽。しかし、だんだんと教育を受けながら、輝きを失っていくことも、現代の反省です。未来をどう創るか？子どもたちの好奇心にこそヒントは隠されているのかもしれません。

今、民族や文化宗教の問題で起こっている紛争も、違いや多様性への寛容という生き様しか、融和と解決の道は残っていません。それは日本に存在している、多彩な文化を受け入れ独自に昇華してきた極東島国の歴史と智恵のなせる成果だとも言えるでしょう。個性を大切に慈しむ。個々に宝石のような宝物がある。それを大切に見つけ、磨くことが、最も大事で尊いことであろうと、確信しながら、我々はこの事業を進めています。

人は文化や風土の違いに魅了されて、冒険の旅へと船を漕ぎ出して行きました。北イタリアのヒントから、極東日本の四国高松での7年目の実践となり、今後、未来の希望を皆さんと一緒に創造できれば、70年前に立ち上がったイタリアの先輩に微笑んでいただけると妄想しています。

平成27年12月

高松市長 大西 秀人

NPO法人アーキペラゴ 代表理事 三井文博

Archipelago（アーキペラゴ）は多島海・群島（瀬戸内海のような空間）という意味の英語です。



高松市芸術士派遣事業とは

様々な芸術分野に高い知識を有する「芸術士」が、保育所・こども園・幼稚園で生活を共にしながら、子どもたちの興味や芸術表現をサポートするアートな保育が、平成21年秋より始まっています。市内40施設の保育所・こども園・幼稚園（平成27年度）で展開するこの事業は、自治体が独自に取り組む保育支援の事例としては初めての試みです。

多くの子どもたちが共に過ごす保育所・こども園・幼稚園を舞台に、彼らの感性と創造力の芽を見つめ育む環境を整備すべく、アートを通じた活動経験を有する「芸術士」が週1日ペースで各施設に派遣され、単発のワークショップや発表会に向けた制作ではなく、年間を通して保育に参加し、子どもの日常をアートの目線から“見守る”という関わり方をします。

各施設で展開される芸術士活動は、あらかじめゴールが設定されているという訳ではありません。定式化されず、子ども・芸術士・保育士・幼稚園教諭が共に素材やテーマから学び・発見し、どこに行き着くかを知らない開放性は、時に私たちに困難さを与えます。「この事業は、どこにねらいがあるのですか？」と必ず聞かれますが、この不確かな状態が、活動を一層面白いものにし、何より私たちの想定を超える出来事の数々がそれを裏付けています。

本事業は、結果ではなく、過程を大切にします。活動の中で、子どもたちが思い思いに感じ表現するとき、子どもは独自の心を持っていることが分かります。その1人ひとりの行為や言葉はドキュメントとなり、芸術士と子どもたちが一緒に答えを探した経過として記録されます。

芸術士は、普段の保育の中では見たことのないもの、したことのない体験、考えたことのないこととの出会いを提供し、子どもたちの可能性を狭めることなく、彼らの自由な発想と創造力を最大限に引き出す環境をつくります。また、アートに正解がないように、ある問い合わせ返ってくる彼らの答えはひとつとして同じものはありません。子どもたちの自由な発想を芸術士が見守り・支え、その表現したことを褒め・認めることもまた、大切な環境の要素のひとつです。

芸術士は、感性と創造性の可能性を実体験として理解しているアートに通じた人であり、子どもと大人の境界を越えて共に交わるコミュニケーション能力が求められます。そして、これまでの実践の中から、次の4つのミッションが言葉となり共有されています。

[子どもたちと社会を繋ぐ] 活動ドキュメントの制作。

[結果を求めない] 過程を重視。

[子どもたちのサポーター] 自ら考え、工夫し、伝える力を引き出す。

[子どもたちの“こころ”と“ちから”を大切にする] 探求心、想像力、創造力を引き出す。

毎年の活動報告展の開催・冊子の発行のほか、瀬戸内国際芸術祭うみあかりプロジェクトへの参加（平成22年7月）、高松琴平電気鉄道とのタイアップ・スタンプラリー企画（平成23年7月）、高松丸亀町商店街自転車おしてくれてありがとうプロジェクト（平成26年9月）など、子どもたちと地域を繋ぐ役割にも取り組んでいます。アートを媒体としたこのプロジェクトが、これから社会を担っていく未来の子どもたちを豊かに育くむ力となっていくものと考えています。

芸術士プロフィール





せとうち 瀬戸内保育所

海に浮かんだ 海が転がる 海がこけた

むらい ともゆき
村井 知之 芸術士

4/20 ●お誕生会と新任の先生紹介で、最後の合奏に参加。保育所にある太鼓にて。
4/24 ●朝の時間は固定のメニューではなく、色々生まれ易く、柵に石を並べていると彼がボールをはさみました。
部屋で自己紹介の折、雑巾の棒で伴奏に乗り踊って、
その先にティッシュをのせてヒラヒラ舞い落ちると拍手。
5/11 ●ダンゴムシに集中して3歳児に、虫の声を自前楽器にて試行する。段々と虫になって所庭をチンドン式に練り歩いてゆく。音の遊びと妄想すること。
6/1 ●音を聞く／音を出す。楽器やそうでないもの全部を楽器として鳴らしてみること。机、スリッパ、空箱たちと

太鼓が合体する。横になった太鼓の穴を覗くので、音見える?と聞くと、「うん見える。」
7/27 ●通奏リズムは叩いておいて、2歳児の皆が各種太鼓に呼ばれ試す。小物打楽器も出し音色が増えてくる。
先生も踊りだす。振動を感じつつ揺れて。
8/10 ●ゾウじん(ぞう組の子どもたち)の化粧の儀を執り行う。
5/11 ●ダンゴムシに集中して3歳児に、虫の声を自前楽器にて試行する。段々と虫になって所庭をチンドン式に練り歩いてゆく。音の遊びと妄想すること。
6/1 ●音を聞く／音を出す。楽器やそうでないもの全部を楽器として鳴らしてみること。机、スリッパ、空箱たちと

太鼓が合体する。横になった太鼓の穴を覗くので、音見える?と聞くと、「うん見える。」
クレズマーの曲でG君とカラダセッション。
朝、外で過ごしていると蝶々の絵本を持った彼が、幼虫に見えたダンゴムシを先生も踊りだす。振動を感じつつ揺れて。
8/10 ●ゾウじん(ぞう組の子どもたち)の化粧の儀を執り行う。
5/11 ●ダンゴムシに集中して3歳児に、虫の声を自前楽器にて試行する。段々と虫になって所庭をチンドン式に練り歩いてゆく。音の遊びと妄想すること。
6/1 ●音を聞く／音を出す。楽器やそうでないもの全部を楽器として鳴らしてみること。机、スリッパ、空箱たちと



おうぎまち 扇町保育所

ひらかわ めぐみ芸術士

「きょう、ファッションするん?」毎週金曜日はスマイルデーという、異年齢混合で好きな部屋のコーナーに入って遊ぶ日。その中でつくろうコーナーから、どんなことをしようか…発展させる。

最初に持っていたのは新聞紙。これで服をつくるみよう。自分で着ながら自分の服を作ることはなかなか難しいの違うものになる。
リアルとロマンが混ざった時間を生きれること。

最初はどうやったら服になるのか?分からなかった。男の子も着飾るのはすこし、はずかしいような照れるよう

恒例となっているファッションショー「オギコレ」では、観客の見守る中、廊下のランウェイを歩き、発表する。

モデルスイッチの入る女の子。将来モデルになりたいとい

う夢ができた子もいる。最初は恥ずかしがったり泣いてしまう子

もいたが、今では誰が何を言わなくても自然とランウェイの

入口で出番を待つ行列を見る事ができる。



みや わき 宮脇保育所

Color meets Music
ふりーだ
Frida 芸術士

4月、園庭の桜が風に舞うなか、初めての登所日。「芸術士フリーダ」の名札を見て首をかしげる子どもたち。「フリーダのフは豆腐のフだね。」と話しかけてくれた女の子。「じゃあフリーダのりは?」「リンゴ」「ダは?」「ラクダのダ!」
ご挨拶は、「大切なものをみつけよう、それをさがしに行こう、それを届けに行こう。」という歌を歌いました。「なにかを見ついたら、わたしに教えてね。」
子どもたちは発見したことをたくさん教えてくれます。

「ねえ!これ見て!」と持ってきててくれたぬり絵はカラフルな色のダンス。
4歳児、5歳児クラスでは木琴のマレットと絵の具で絵や作ることが大好きな宮脇保育所の子どもたち。そんな子どもたちとたくさんの色と音楽をミックスした活動がはじまりました。
ピアノのカラダのなかをみんなでのぞいているとき、ふと私が弾いたメロディーに合わせて「きらきら星」を歌う男の子。そこから始まった星作り。
2歳児、3歳児クラスは紙粘土つくりから始めました。色紙で飾りつけていると、突然「きらきら星」を歌いだした子どもたち。みんなの歌声とともに星が力強く輝きました。



ふく おか 福岡保育所

ステキなコトバ
ささき
佐々木 あづさ 芸術士

朝、駐車場に車を停め保育所に向かっていると、私も気づいた子どもたちが「佐々木先生やー!!!!」と走ってお出迎えしてくれます。「今日はどこのクラスなん?」や「今日は何するん?」と目を輝かせ質問をしてくれる福岡保育所の子どもたち。

福岡保育所での芸術士の活動も5ヶ月目に入りました。子どもたちと週1回の芸術士の活動。今まで、野菜スタンプをしたり、コラージュをしたり、大きな絵を描いたり、ボディペイントをしたり、海の世界を制作してきました。

芸術士の活動当初は、「できん!!!!」の連発でしたが、

2か月、3か月と芸術士の活動の回数が増えていくにつれてボディペイントを終えて「ボディペイント楽しかったよ。またやりたい!!」と嬉しい言葉。お魚さんのぬいぐるみ制作で最後の仕上げでお魚さんに新聞紙をつめた後に「お魚さん、お腹パンパンになったんやね!!!!」と可愛い言葉。子どもたちの発する言葉は私自身も新しい発見や驚きをすることが沢山あります。これからも子どもたちと一緒にドキドキ・ワクワクしたり、活動の中で新しい発見を見つけていきたいです。



つるお 鶴尾保育所

一緒にたのしむ

いけだ さち
池田 早智 芸術士

4月、新しい1年間の始まり。はじめて出会ったのは、鶴尾保育所の子どもたち。晴れの日には三輪車に乗って迎えてくれる。「きょうは、なにするん?」と道具をのぞき込む。彼らは元気いっぱい、そのパワフルさに、いつも驚かされる。

■ピンクのくつした

楽しみにしていたボディペイントの日。待ちきれずにバケツをのぞく姿がチラホラ。思いきりが良い子どもたち、バシャバシャと絵の具をかき回す。石けん入りの絵の具は一気に泡だらけ。色とりどりの手を友だちにペタリ、

先生にもこっそりベタリ。友だち同士で握手して絵の具が混ざると混色祭りがスタート! 「オレンジはどうやってつくるん?」 「ピンクがほしいなあ。」 次々に混ざる絵の具、ポタポタ垂れるとおばけになった気分。熱狂の混色祭りのなか、大事に大事に取っていた小さいバケツ。かわいいパステルピンクの絵の具。そろそろ足をつけてみると、ピンクのくつ下をはいているみたい。この瞬間を待っていた女の子たち、キラッキラの笑顔。

■うみを泳ぐ

今日の遊び相手は新聞紙。もんだり広げたり踏んだり、いつの間にか柔らかくなった。くしゃくしゃ山が崩れて、広がった新聞紙に飛び込む。すいすいとクロール、力強い平泳ぎでかき分けて、可麗な背泳ぎも披露。

ここは何でも出来る海、新聞紙の海を泳ぐ。



おおた 太田保育所

描くことはコミュニケーション
すずえ としひろ
鈴江 利浩 芸術士
(スージー鈴江)

4月13日、太田保育所に初めて芸術士として子どもたちの前に立ちました。
「こんにちは! スージーです。よろしくお願ひします。」
そこから始まった太田保育所の子どもたちとの時間。
週1回の月曜日だけのぼくにとっては最高の特別な時間。
名前もまだ覚えてないのに、子どもたちは描いた絵を「ふん」といって見せてくれる。そこからがスタート。いっぱい話さなくても出来るコミュニケーション。

「カレーライス描いて!」「お花描いて!」「アイスクリーム描いて!」怒濤のように押し寄せてくる子どもたちの容赦のないリクエスト。
「出来た!」「うほ~つつ!すごい!すばらしい!」

すごい才能がここにある。とても素敵な瞬間。
「この青が良い!」「うん、うん」子どもたちがうれしそうにうなづく。とても幸せな瞬間。



木太保育所

おおた
絵美子 芸術士

木太保育所では、自由に遊びのコーナーを選択して午前中を過ごす日がある。私は積み木遊び、運動遊びなどのうちのひとつ「つくろうコーナー」で子どもたちと関わっている。アイスやお菓子の空き箱、ヨーグルトカップ、丸シール、スズランテープ、輪ゴム、折り紙などの素材から、子どもたちは慣れた手つきで遊び組み合わせ、色を塗ったりくっつけたりして作品をつくっていく。ひたすらペンで色を塗ったり、パンチで穴を空けたり、単純で奥深い作業を続ける子。友だちと教え合い関わり合いながらつくっている子。いろんな子がいる。

ある日。休み明けのつくろうコーナー。始まる時間の前から待っている子が居て、楽しみにしてくれている様子が分かる。見事に箱を貫通させてこっちを見つめてる(写真1)かと思えば、バランの草がいつの間にか立っている(写真3)。置いてある素材は全部把握していて私に聞かずとも自分でなんとかしている。ピンクの紙が無ければ塗ればいい(写真5)。さっきまで頭の中にあったものがたちになる。こうして日常の中で、子どもたちから発想や造形が湧き出す瞬間に立ち会えることは、とても心地よい。

ある日。お客様がコーナーの様子を見学に来た。「みんな自発的に遊んでいてすごいですね。」「やりたいことを選べるなんて、大学の講義を選ぶみたいな

感覚ですね。」

最近、自由あそびの時間が確かに子どもたちに浸透しきっているのが分かる。置いてある素材は全部把握していて私に聞かずとも自分でなんとかしている。ピンクの紙が

無

ければ塗ればいい(写真5)。

自分のクラスでないと

「いつ来る?明日?」と言って待ち遠しく思ってくれる気持ちが嬉しいです。

ぞう組は担任の先生からテーマを頂いていて、まごとコーナーを1年かけて作るという活動を行っています。

みんなのお作りでは大変気に入り、壊れないよう大事にすることを学び、自分たちの作品意識が高まってきた事が良かったと思いました。



古高松保育所

遊びから好きになる
ながの ゆみ 芸術士

‘わんぱくでもいい たくましく育ってほしい・・・’

昔、流行った言葉をかけたくなる、とても元気のいい子どもたち・・・

活動をすごく楽しみにしてくれて私を見つけると「今日はどこで遊ぶん?」と声をかけてくれます。

自分のクラスでないと

「いつ来る?明日?」と言って待ち遠しく思ってくれる気持ちが嬉しいです。

らいおん組では自分の人形を作り、大画面に「ふるたかまち」の様子を描きました。町の中、人形を持ってあそびな

がら描いていて、描きながら→遊びながら→描きながら→遊ぶ。普段絵を描かない子が友だちと一緒に楽しんで自然と描ける。自分表現が出来るようになる事で自信に繋がる・・・。それぞれの世界観が見られて面白い活動でした。

きりん組は3歳児のクラスで、活動の中で1番小さい子どもたちです。会話が至難の業で、宇宙語が飛び交う日常に私はあたふたしています。素直な可愛らしい子どもたち・・・

色々な初めて!に楽しんで挑戦してくれます。

このように活動がスムーズに行えているのも、先生方が温かく子どもたちを見守ってくれているからです。

これからも遊びの中から好きが湧いてくるような活動を目指していきたいと思っています。



やしま 屋島保育所

くんづほぐれつアーティスト

カタタ チサト 芸術士

体で感じことからスタートする活動は、いつだってスリリングでエキサイティング！ここでは誰もが、体感した想いを仕草や表情～声～動作～あそび～全身ぜ～んぶ使ってストレートに表現してくれます。人の感じたイキオイにのって人数が集まつたかと思えば、そこから発見した遊びを1人でふくらませたり、またそこに他の人がくついて刺激がはじけて新しいムーブメントがおこって！個性と欲求の渦からうまれる生物アートな瞬間瞬間を彼らと過ごしています。

☆のびーる粘土が以前からお気に入りの3歳児とは白いものにこだわって。ふわふわや紐、ゴム、布、ペタペタ、あらゆる白いものの中からお気に入りをひとつ選ぶ彼らの

探し方も全身です。においをかい、透かして見て、ひっぱって、顔をうずめて・・全部くつついでタペストリーが仕上りました。☆自分をとりまく全てを吸収していく4歳児。

カタタンダンスを観るそばから彼らなりの物語が生まれてきます。大～きな布も彼らにかかれば、いともたやすく動物になり家になりお化けにと変身！からだ遊びが爆発した台風の日だって、外へ行けば水たまりの音をロープを使って見つけます。「あ～しゃべりよう～！」

☆溢れるエネルギーと途切れることのない欲求を持つ5歳児。

コワイ遊びをしたかった彼らは仮面を作つておどかすだけでは飽き足らず、1人ずつ通り抜ける為の＜通れない道＞



はやし 林保育所

わかるよ わかる…

びんちゃん
松尾 由美 芸術士

元気いっぱいの子どもたち。

元気、「わからない」を描く1日をつくりました。

みんな、さみしい虫とひっつき虫を心の中に飼つていて

わざととかかわってきてくれます。

「びんちゃん、このぐらぐらしょん…(下の前歯)」

「どれどれ？」ちょっと歯をさるとボロリ落ちちゃった。

ビックリしておおわらい。子どもたちと私を介して

生まれる笑い声は心の虫を追い出しているようです。

「おおきになつたら歯もぬけてくるんやな。生まれた時は

つるつるやつたのに。」そこでおなかの中にいた事を聞いてみました。「赤かったわ」色を伝えてくれます。

そのときの感じを絵で描いて～

という、「わからない」を描く1日をつくりました。

グングン。わからなすぎて描けないと泣いちゃう子。

私はワンピースの中に入れ込んで、ぎゅぎゅぎゅうう

抱きしめていると、おなかの中で笑ってます。

「みんなのとんとんとんで大丈夫。元気でとるよ。」

「わからない」と「わかる気持ち」

いろいろなことを考えて、わたしと時間を過ごしている

子どもたち。

今日も、子どもたちが色を付けた元気さと出会い、感激し

それがいちばん！と、わらいあつたところです。

「でも、11ちゃん、さみしそうやな…」

「みんなのとんとんとんで大丈夫。元気でとるよ。」

「わからない」と「わかる気持ち」

かわいい瞳に、いつもひきこまれています。



にし うえ た 西植田保育所

触れる、試す

いけだ さち
池田 早智 芸術士

新しい環境に、実は1番ドキドキしていたのは、
私かもしれない。
「ねえね、どろだんごって、どうやるん?」
保育所で1番のさら粉ポイントへご案内。あそびの中へ引
き入れてくれる。ホッとしたのも束の間、怒涛のどろだんご
づくりがスタート。大忙しのはじめまして。

■伸びてつながる道
古新聞でつくる、ふしぎな地図。
子どもたちがつくる道は真っ直ぐで、おそれることなく、
いろんな方向に広がってゆく。1本だけ伸びていった道も、

いつの間にか他の道とつながっている。
「ここには公園をつくろう。」「おもちゃのうえに、すみたいなあ。」
道の広がりと共に、物語も展開してゆく。

■ぴったりのお城
長いロール紙に、思いっきりお絵描き。
鼻の高いウサギや、パン屋の車、パインあめが転がって
お姫さまも現れる。あっという間にぎやかになった!
男の子たちはお城を描くのに夢中。
「ぐしゃぐしゃをかこう!」と手にはマジック。ぐしゃぐしゃと

色とりどりのモジャモジャ。4人分のモジャが合わさると、
なぜだかしっくりとくる。その出来栄えにっこり。
赤い線が印象的なお城は、自由に動く線が気持ち良い。
窓がたくさんついている、大きなお城。もっと大きなお城も
描きたい!と次は水色の線がするする走る。ごろんと紙の
上に寝そべって描く。

「このお城はおれにぴったり!!」



あさ の 浅野保育所

ロマンとリアルの境界がない

むらい ともゆき
村井 知之 芸術士

4/16●棚を倒して砂や石を入れる遊び。そして船になる。
5/15●外遊びが不足しているので、身体性の強い活動を

と様子見つつ、ディジュリドゥを出し吹く。傘立て、
花壇の下、排水溝、空..響く音に耳を寄せてゆく。

走るのが流行ってるので、楽器はそのまま
スターターになる。
6/15●3歳児と身体の活動。寝転がり、動物になり
音楽を受けて動く。子どもがおとなを押す。声を出す。
6/25●言葉とオノマトペでナビつつ声や動き、
ゴッコが行き来る。遊び、表現も交差して現れてくる。
7/8●お楽しみ会で釣りコーナーがあり、海感の演出を

頬まみ、岩場を設け、扇風機に水色テープを吊るす。
7/31●ガチャガチャの代案を考え、調理用ボウルで
水中を覗き見るプラン。彼女が貯めた水を素早くかき
混ぜて横から見るとくっきり渦の様子がわかる事を発見。

先生にアイデアを提供したり
狙いや想いはあるけれども
着地点は決まらず、着地帯位はあり

想像や創造の点線を張り巡らせて
即興的に評価のつかぬ事柄を拾ってみています。



こく
ぶん
じ
なん
ぶ
国分寺南部保育所
コワがらせるってのは
相手が喜ばないといけない
力タタチサト芸術士

5歳児ぞう組さん。まくらシートでの遊びからコワイ想いがつのって、春から「コワイ研究会」を開催しています。「コワイってどんなの?」から始まる、髪をふり乱してゆっくり進む子どもたちや、「オオオオニッ!!」と唸りながら這っていく子ども、白目でのけぞったり、まくらな部屋で白い布をまとめて気配を消したり様々です。- 日本の幽霊 - や - ヒエロニムス・ボス画集 - を本棚に置くと「みんなが髪長いの?」「着物が必要だよ」と衣装研究。「こっちはコワくない」など取捨もします。リクエストにより音楽は「コワ」そうな曲をダウンロードして持つていけば「この(曲の中の)カラスの声がコワイ」と

鋭く反応し、実際に自分たちで音録することに! 声や体を使ったコワイ音をつなげた音源ができました。
「コワがらせるってのは相手が喜ばないといけない」とは彼らの信念で、まさに演じることの基本! 誰に教わったわけでもないけど「ちやーん」とわかってる。さすが!
夏のボディペイントでも、自分が彩った顔を初めて鏡で見て(それまで演じる姿は鏡で見ていかなかったので)
「え~っこんな顔、オバケやね!」と再確認(^▽^)
そんな折、コワイ研究会のみんなにコワイ贈り物が届きます。箱ごと彼らに渡すと…、その箱に書かれた「コ・ワ・レ・モ・ノ」1文字1文字コワイ声で読んでおひえたり、ゆすって耳を



む
れ
牟礼保育所
子どもの奏でる声～添う音～
みき ゆき
三木 優希 芸術士

そばでキンチョウし、ノックしてギャップ盛り上がったり、開けるまでも彼らのコワイワールドをふくらませる時間です。すっかり「本当にコワイ」を堪能した後は、のびる大きな布も友だちと協力して動かしたりさらにコワがらせようと盛り上がっていました。

日々「コワイのはもうせんの?」「次やろうよ!」と研究に余念のない彼らが今後どうつながっていくのか、ワクワクしながらサポートしていきたいと思います。

「きのこが頭にパカッ!」「これ前しようと思ったんよ~!色が水に移動する実験!」子どもたちの声は作品である。突拍子のない言葉のリズム、重なり合う叫び声。

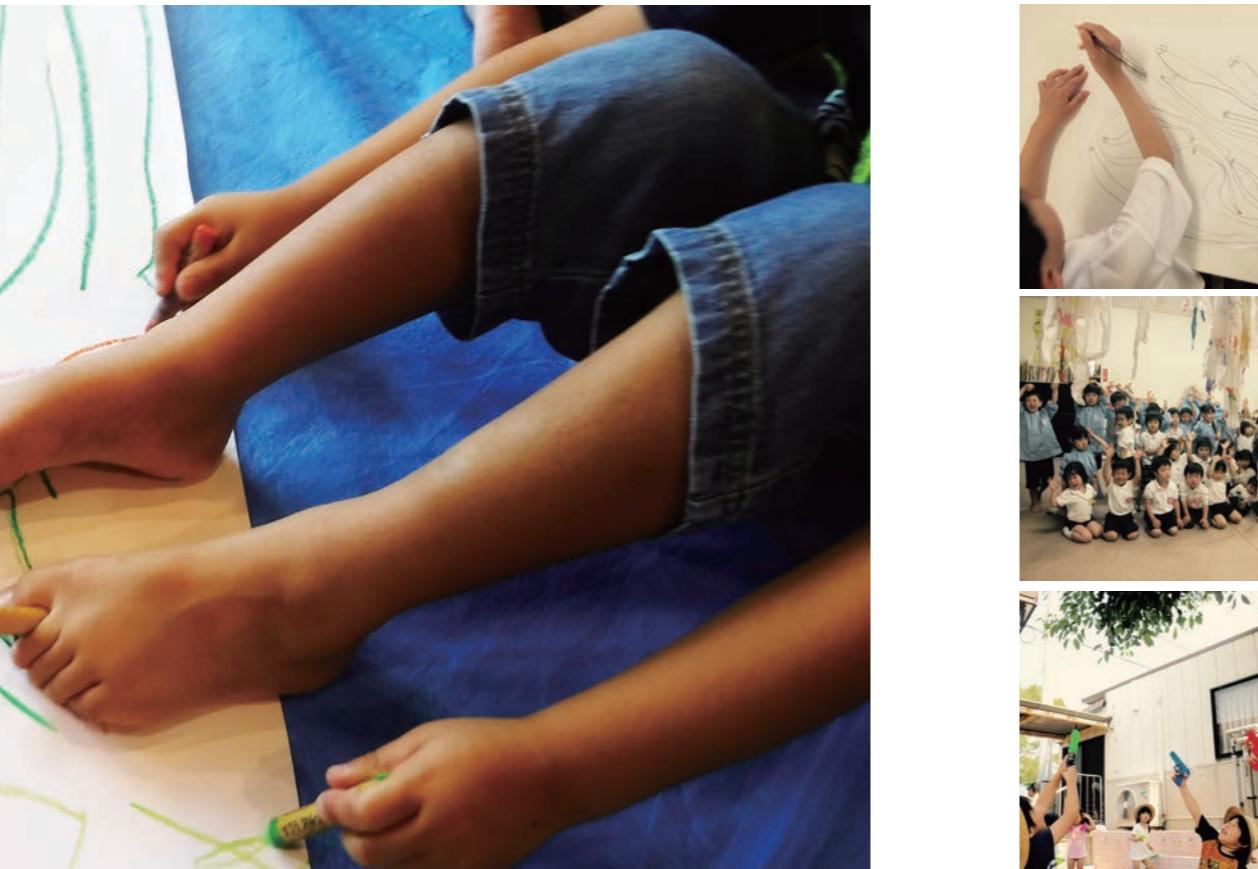
胎内の音は、テレビの砂嵐に似ていると言われている。胎内の音は心地良かったはずなのに、砂嵐は不快に感じる。いつからノイズか不快と感じるようになったのだろうか。ダンスでは異空間を作り出す為、ノイズを音源として使う事がある。子どもたちの声も、聞き方によっては面白い。大人はこういった声を騒音とひとくくりにしてしまってはならない。何を話しているの? 何故そんな事を言うの? 子どもたちに寄り添い、音として自分の中に入れてみると、そこには、子どもたちの声が止まっている。そして自由は



Sono ormai quasi 7 mesi che con i bambini dell'asilo ci divertiamo e cresciamo insieme!
Ogni settimana è per me sempre una nuova sfida per cercare di dare ai bambini sempre una nuova esperienza sia su cose già fatte sia su cose mai fatte.
Dal disegno con i pastelli a cera sui grandi rotoli di carta alla pittura con tutto il corpo e poi gli aeroplani prima di carta e poi di plastica e poi il labirinto di corde nel bosco e i palloncini d'acqua. È ormai passato mezzo anno ed ancora sento che il meglio deve venire. Io cercherò sempre di dare ai bambini il meglio possibile per crescere con divertimento ed allegria.

た　い 田井保育所

毎週毎週が新しい挑戦
ルカ・ローマ 芸術士
LUCA ROMA



子どもたちと一緒に楽しみながら活動して早や7か月が過ぎました。
毎週毎週が本当に新しい挑戦に次ぐ挑戦です。
それはまるで子どもたちに常に新しい経験をさせようと試みる戦いのようです。
既に彼らが知っている事でも知らない事でもどちらでも、とにかく新鮮な経験として映るようにと、私は頑張っています。クレヨンで大きな紙に描くことから、全身を絵具まみれにしてのお絵かきへ、紙の飛行機を飛ばした後はプラスチックの板で作った飛行機、森の中に作ったロープの迷路や水風船で作った森の迷路などなど、小さな日常の経験



たかまつ 高松保育園

「ほいくえんで、なにするん？」
すぎやま あゆみ 芸術士

から少し日常からは離れたワクワクする経験へ。
もう半年が過ぎてはいますが、もっともっと良いものが子どもたちと一緒に出来るといつも感じています。
私は子どもたちがいつも楽しみながら、そして喜びを持ってより良く成長出来るよう、最善の経験を与えられたらと試みています。

今年も、園庭の海紅豆（かいこうず）の樹にきれいな紅い実がなっています。2年目の高松保育園の担当となりました。前年度とは少し変わり年長児すみれ組と、年中児ほし組。また異年齢で交流をもつ月2回の内1回のなかよしデイでは年少児さくら組とも活動を共にしています。

ある朝、私が紅い口紅をついているのを見て、子どもたちが「あさごはんに苺たべきたんや。」と真剣に話している。(トイレットペーパー・小麦粉・片栗粉粘土・染め色水遊び。)

とある午後誰かが私の小指をにぎっている、とても驚く。誰かしら?にっこりした顔で彼はだっこしてほしいと言う。昨年もそんな女の子がひとりいました。「〇くんてゆうんだ。」積極的なアプローチと共にこの日から仲良し。「〇くんないなあ?」

と探していたら、「どこにおったんよ～。」訪ねる日には「おはよう！」と駆け寄ってきてくれて。何をするでもなく再会は必ずお話を聞く。お家の事、お友達の事。子どもたちに丁寧に接することを心がけて過ごしています。活動の内容“お母さんのお腹の中はどうだった？”から始まり。今年は主に素材から遊び、広がりを発見する。

しばらく考えたのち、はっ!!と思い出し。「へそのお へそのお。」と唱えながら、夢中で画面いっぱいの長い・短いへの緒を描き満足な顔。小さな頃の記憶を思い出す事ができ、安堵しました。また現在制作中の取り組みは、年長児と年中児の子どもたちで白象について考える事からはじめ、ドローイングを行う。象の形や特徴について話してみたり。白象の造形を作りながら名前を考えたり、象のご飯を作ったり、小象も登場します。高松保育園ならではの、子どもたちの象をおたのしみに。



けい あい 敬愛保育園

ちいさなアトリエからみえるせかい

かしもと み ち こ
樺本 美千子 芸術士

「毎週休み開け、おもしろいことしてくれる人」
子どもたちには、そんなイメージがあるかもしれません。

いつもテーブルひとつで、おしゃべりしながら、のんびり制作楽しんでいます。なので道具も皆で共有することが多いですが、まだまだ小さい子どもたち。まだまだ、わがまま言いたいお年頃です。Aちゃんは、お絵描き大好き。だからこそ時々、怪獣に大変身します。
クレパスやマジックを独り占めしてしまうことも。。。そんな時は、ゆっくりゆっくり彼女にお話します。何度か、お話する事で Aちゃんは、お友だちの事を考えて

クレパスを使ってくれるようになりました。
2歳児の子どもたちですが、自身で気持ちを切り替え「お友だちも使えるように、気遣う」という心の成長をみせてくれた瞬間です。
ドキュメントが見せる豊かな世界
絵具、土粘土、クレパス、マジック、シール、はさみ等、様々な素材や道具で楽しんで遊んでいます。
「できた!」という思いと「楽しかった!」を手で目で体験として覚えてくれます。2歳児~3歳児の子どもたちの成長(進化ともいえる)は、小さな変化かもしれません。
その小さな変化を記録することで、子どもたちの中にうまれる

心や体の成長を大切にできるのだと思います。
「子どもたちを観察し、取材し、記録すること」
それこそが、芸術家である私の仕事だと思います。

にし かすが 西春日保育所

ひらかわ
平川 めぐみ芸術士

布でつくる 5/12
大きなレース生地を見つけ、その素敵さゆえに「落書きしちゃないなあ…」服にしたいと思いつき、「半袖がほしいんよな…」などとズツツ。彼女の想いに合う素材や手法を提案していく。

6/16
「大きくなったらスカートになる」『?』
「スカートめくるんが好きやけん」(3歳男児)

爆弾職人 5/19
用意された廃材と布を使って自由制作。机の下にもぐってなにやらごぞごぞ。見ると廃材を使って作った爆弾をたくさん机の裏に設置している。ボタンを触ると爆発したり、タコ型の爆弾だったりする。そのまま放置するとどうなるのか。
チームTシャツを染める 6/23
しばり染めでチームTシャツを作る。カラーは4色。好きなように輪ゴムでしばり、染料に浸ける。待つ。自分が





さいこうじ 西光寺保育所

あそびのじかん

まつの れいこ
松野 礼子 芸術士

活動時間も遊びの時間も子どもたちは夢中で遊んでいる。「みよってよ、みよって！」と何度も見ているのを確認して遊具の得意技を見せてくれる。砂場からおもちゃの車を走らせていた男の子は、砂場→道具置き場の屋根→階段とどんどん移動していく。(写真1)切った紙に色鉛筆でオレンジ色を塗ったもの。「なにそれ?」「ガム」「これいくらべてもなくならんので」(写真2)自分で描いた絵を、紙芝居のように即興で読んでくれた女の子。(写真3)ロール紙にお絵描きした時は、「描くところが無い!」と紙を裏返して再スタート。

3回目の土粘土の準備をしていると、「きょうなにするん?」「みよってよ、みよって!」と何度も見ているのを確認して遊具の得意技を見せてくれる。本物の自分と身長くらべ。お花が魚で「すいぞくかんみたい」(写真4)等身大の自分作り。(写真5)色水あそび。右手に赤、左手に青、まぜると「スパイダーマン」(写真6)「てんぐ」(写真7)「うさぎ」(写真8)「うさぎ」(写真9)背中に蝶々。天使みたい。(写真10)「バランス！」

子どもたちの日常にそっと寄り添いたい。これからもあそびのじかんを続けよう。

子どもたちの「もうせん」が終わりの合図。お絵描きでも土粘土でもボディペイントでも遊びでも、自分の遊びたいように遊んでいる子どもたち。自信たっぷりに見せてくれるそれは、自分だけのもの。

かわぞえ 川添保育園

いっしょに

まつの れいこ
松野 礼子 芸術士

年長児23人と毎週1回の活動。週1回、会うたびに子どもたちの事を知っていく。「バーベキューしたんで！」「は、ぬけた」出来事の報告があれば、子どもたちからの質問も。「まっちゃん、おばあちゃんおるん?」「どこすんごり?」「いえどっち?」「なにがすき?」私の答えをいつもしっかり全身で聞いててくれる。私もそんなふうに子どもたちの言葉を聞けてるかな。

活動はなにをしても初めての事にはちょっと戸惑い気味。でも時間が経つて慣れてくると夢中になって遊びだす。終わりの時間はいつもあつという間。

あまり笑わない子の笑顔が見られたり、いつも遊ばない子同士が一緒に仲良く作っている姿、「まっちゃん」と体ごと飛び込んでくる時の表情、人見知りの子が自分から喋りかけてくれたり、夏祭りに私が来ないと知ると「かきごおりやきそばと・・・いっぱいかっておいてあげるね」と言ってくれたり、帰りの挨拶の後は、毎回熱烈なバイバイをしてお別れ。優しい嬉しい気持ちをたくさんくれる。

新しいものにも飛び込んでいくように。少しずつ、少しずつ、一緒に遊んで進んで行こう。

(写真1)「て、つながそう」(写真2)下から見る「トイレットペーパーのあめ」(写真3)お神輿(写真4)「えび」(写真5)UFO!(写真6)「かぜひいとるんよ」(写真7)ボディペイント後の泥遊び(写真8)なにがみえる? (写真9)「つちねんどのおうこく」



カナン保育園

のびのび環境で毎日冒險 !!

ながの ゆみ
長野 由美 芸術士

カナン保育園の中に入って感じること・・・
子どもたちの冒険心、想像力が湧き出てくる空間作りにワクワクします。何日目かの活動の時、園長先生から空間作りのこだわりを聞きました。保護者の方も参加して進化し続ける環境作りを目指していることを知り、ほんとうに素敵な園だなあと思いました。
こうした温かい環境の中で、子どもたちは毎日色々な発見をしています。
砂場では管の切れ端をおいて、それを使って子どもたちが大がかりなダム建設をしたり、ある時は日よけ棚の柱の横を一生懸命掘っている子どもたちがいて

「何してるの？」と聞くと・・・
「恐竜の卵 探しとんや～」
「見つかるといいね～」と言うと・・・
「もうちょっとで 出てくるとおもうわあ」
どろんこになりながら真剣に答えてくれる・・・
そんな子どもたちだから、私のことを熱く受け入れてくれる・・・
ある日のこと、活動が終わり私一人で片付けしているとひばり組の子たちが
「ゆみせんせ～い、雨が降ってきたけん、早う終わらせて入ってきなよ～」

「ゆみせんせ～い、1人でがんばっとるけん、がんばりなよ～」・・・
優しい言葉のシャワーを浴びせてくれます。幸せな気持ちになりました。
まだ、芸術士を始めて1年足らずですが、子どもたちの優しさに触れて、先生たちに支えられて活動できる喜びを感じながら、子どもたちと一緒に冒險していきたいと思っています。



高松南保育園

いろんなチャンネルを持っている皆

みの かおり
美濃 花織 芸術士

週に1度、まじわるひとときだから、その時にしか出えない皆がいる。
昨年度より2年目を迎えた活動。2歳児から5歳児までじゅんぐりと色々な素材を通して各お部屋の色を感じる。季節や天候も感じながら、臨機応変に素材や皆でつくるひとときを実感できるように気持ちも練って。

園の行事。おばけやしきの製作中、エアドームをつくる。風をおこして、空気を感じながら、切りとったりお絵描きをした素材やらをドーム内に貼っていました。H君が、大切で継続を如何様にも変えていく。ちょっとずつ。

皆とまじわる時間はあつというまのひとときなのだけれど、こだわりを持って、自身を演出したり想いの丈を口にして

くれると、何かをつくるアンテナはきっと皆の中にあるのだ
と感じる。たとえば絵の具をじぶんでも自主的に触れて
みて感じて。感覚を知って、じぶんの想いを知って、じぶんの
内側と向き合うと自身を知る事につながっていくと思うから。
そんな風に、感覚や想いの共有が出来る事、色々な皆に
出会える事、嬉しく思う。



わ こ う 和光保育園

ヨコイチとの出会いから

まつお ゆみ
松尾由美 芸術士

“今日はなにして過ごそうかな？”キヨロキヨロ
私の活動は子どもたちとの会話からうまれます。
6月の梅雨の合間、巣から落ちていた1羽の燕の
ヒナを見つけました。巣に戻そうと、梯子に上って入れた
のですが、何故だか、もとの巣から飛び出できました。
梯子の角に頭をぶつけぐったりと。本来なら見過ごすべきですが…小さな掌の中でうずくまる、かすかな命。
心配そうにのぞきこみながら、「おでこに、ほらあ～、横に1本ハゲがある。」「たんぽほみたいに、ふわふわがついとる。」
そして「せんせ、助けてあげてよ。」の声に心を動かされ

しぶしぶ私は燕をつれての活動を始めたのです。
名前はヨコイチにし、
ヒナと子どもたちを見つめていく時を過ごします。
「なんでお母さんおむかえこんのかな？」
今までに見たことのない、
やさしい表情とつぶらな瞳が垣間見られます。
小さな命を通して、こころの深さが
あじわえる時間の広がりを感じました。

2年前に作った椅子のキャサリン。台風の風に乗り
外門まで、とんで行ったそうです。その時うけた傷で、
貼った布が剥がれています。
「治せるかな…やってみる？」
「うん！」あの時3歳だった子どもたちが中心となり
星組のみんなと、あらたな作業を始めています。
ありがとうございます、みんな。



わかば 若葉保育園

ほしを おもう

いけだ さち
池田早智 芸術士

4月、ふじぐみさんたちの間で、じわりと広がったのは
貝がらブーム。園庭に、たま～に落ちてる小さな貝。
見つけるとラッキー、巻き貝なら大ラッキー！
大切に洗って、色を塗って…
「なんに変身したでしょ～か？ピヨツピヨツ。」
小さいを愛でる素敵なふじぐみさん。

■なんに変身したでしょ～か？
「すいかのおばけ」
「ゾンビ！」
赤い手や緑の手が、ぐいぐいと伸びてくる。色をまぜよう
と動く手は大忙し。混ざった絵具を、手から、うで、腕

から足へと、どんどん塗っていく。ほっぺにもペタリ。
何にでも変身出来ちゃうよ。
ちょこちょこと、歩幅の狭い女の子たち。
大切な洗って、色を塗って…
「なんに変身したでしょ～か？ピヨツピヨツ。」
動きもしっかり真似してる。つられてにっこり。

すると黄色いロール紙の端っこが、すごい熱気。

クレヨンを塗りつければ、手のひらでゴシゴシする。

青、緑、灰、銀色が混ざり合い、深くなつてゆく。

「いまね うちゅうをつくつるんよ。」

暗い宇宙は、奥へ奥へ伸びてゆく。彼らにとっての宇宙はどんなものだろうか？

キレイだけど少しこわいような不思議な宇宙を感じた。



いま ざと 今里保育所

フダンを旅すること

むらい ともゆき 村井知之 芸術士

4/1●ゴッコ三昧。ことばやオノマトペ合戦～TVゴッコ。今日のテイクは盛り沢山。言葉と想像力だけあそぶ。

4/3●落葉を持ってきては筒に入れ、下の穴から引張り取り出し、もらっては1枚づつ並べる。くりかえす只只。

4/8●こいのぼり制作のプレインストーミングをする。えさやった、ろばにみえる、頭が私みたい…皆の設計図。

4/9●ゴッコにお便りコーナーが発生して、身体表現も膨らんで、私が着ている服を着せるのが繁盛する。幾らでも膨張→爆発→新しいの誕生が続くのだ。

4/10●積み木をテープでくっつけて叱られる(私が)。火種を絶やしたくはなく、靴下を合体させてゆくのです。



みのり保育園

想いの丈とアンテナ

みのり かおり 美濃 花織 芸術士

4/15●鯉のぼり制作の道すがら、自然物を装飾に使うグループ内で、黙々と丁寧に葉の裏に棒毎にボンドを塗り込んでゆく彼。

5/20●小枝や石等で制作している傍で物欲しげな彼女。

特殊用務員として7年目のここでは常に保育環境を俯瞰若しくは横で並走する係。

6/8●良い土を求めて所内をくまなく探索する年長児。どうもしきり来ず、購入の交渉に職員室へと向かう。

8/19●書き物を見に来た彼らと居る内に円卓が太鼓になり、暫くすると嬉々として「僕らだけでやるから

叩かないで」となる。

立場や役柄や関係がよくパラレル。

他の現場で直接的に何かを開くのとは対極に

地球の裏側に穴を開けるかの様な

ある種アクロバティックな関わりがじっくり進行中。

本年度で4年目となる春、卒園した年長児の背中を見届けた皆はあつという間に年長さん。皆、一つ年を重ね、1年後の未来の空気に想いをはせながら、新しい空気をつくる希望も感じた。

エアドームで空気と暗闇の中の光を感じたり、土粘土でしつかり手のひらと向き合ったり。絵の具やクレヨンで斜めに色を重ねたり、模様の様に色を配置したり、皆それぞれの瞬間瞬間に違う色彩となる。同じ線をたどっても個人が立っている。色々な素材を通して感じる自身の感覚、おとなりの友達と組合わさると広がりも増し、互いに工夫しあって楽しさも広がる。そんな時に、ふと「みんなで一緒にしたら

上できっと、自信という支えになると思う。小さい頃に、自分の中からワクワクした楽しかったコト。そんな記憶は今になっても私の一部ずっとある。そんな想いが一瞬でも彼らの中に感じてもらえば、感無量だな…と思って、私自身もアンテナを張り巡らせている日々。



じょうとう 城東保育園

園外に羽ばたいて…

たに ゆき
谷 由貴 芸術士

子どもたちの描く絵はのびのび個性的で力強く素敵!
いくら言葉で語っても実際観ることが出来る人は限られ説得力が無いのが現状…。
芸術士活動報告展の会場で城東保育園の子どもたちが描いた大作の前にずっと佇んで観ていたお年寄りの姿が印象的だったと聞き、園の外で子どもたちの作品を観て頂ける機会が欲しい!と切に願うようになった。
その思いを発信すると園の最寄り駅であることでん片原町駅での展示が実現!今まで年2回ペースで5歳児が制作し展示を続けている。
子どもの作品に興味を持っていたアイバル香川の関係者か

ら展覧会の提案があり、外に興味のある方を中心に子どもたちの作品を観ていただくことができた!丸亀町商店街にも子どもたちが描いた自転車通行止めの看板が配置され、街に彩りを添えている。
芸術士活動7年、私にとってこの園での活動が芸術士活動の歴史そのもの。
自分に出来ることを模索した最初の半年。
作家としての立ち位置が子どもの表現を遮っているのでは?と行き詰った時期。
子どもの純粋さと優しさに救われた時期。



はな ぞの こぶし花園保育園

大人と子どものあいだにあるもの

かしもと み ち こ
樺本 美千子 芸術士

子どもが自由に描く絵に魅了され、楽しさを存分に噛みしめている現在…。
子どもたちとの活動を通じ生まれた作品が園外へ羽ばたき…地域で子どもたちの描く絵を目にする機会が増えることは、子どもたちの励みになり自信につながる。

ふとKちゃんが、もらした言葉「おとなになりたいー!」「大人になる」ということは、どうゆう事なのでしょう。選挙に行ける18歳?成人と呼ばれる20歳?真夜中、12時の鐘の音とともに「大人」に変身する?子どもたちと制作遊びをしていると、その遊びの中にも「大人の入り口」が、あちらこちらに隠されています。

「ひみつ基地プロジェクト」めろん組(5歳児)
ダンボール、廃材(空箱・プラケース・色画用紙等)を使い「ひみつ基地に、あったらいいもの」を制作。グループごとで、話し合い、皆でアイデアを出し合う。「お風呂やろ」
「冷蔵庫ないと困るよ」「ペットは?」たくさん出たアイデアから自分たちに必要なものをセレクトしてゆく。
Hくんが、段ボールの中に入って走ってくる。「これ、TVから人が出てくるTVな!」「お~!3DTVだね。」大きな段ボール板を耳にあてて話すMくん。「これスマホ!大きいから便利だよ。」
スチレンボードで、ピアノを作ったMちゃんたち。トントン…。リズムをとり、ボードをたたく。先生も参加し、まるで「サウンド・オブ・ミュージック」
皆で協力し完成させてゆく過程は、大人の世界そのもの。



れんげ保育園

たくさんの名前のないあそび

むらい ともゆき
村井 知之 芸術士

4/14 ●園にはない大人の本を見る、それを絵に描く。
暫く眺めた後各々描く。作庭、着物、工事、舞踏、
ネオン等の写真集や紀行の図書に、園にある絵本も
一つ混せて。

5/12 ●絵本に影響されて、100階建ての家を作る事に。
図案作成、彩色、組立、インテリア… 皆のサイズで完成。
ひつつかなそうな物を貼ったり2次3次元が混ざったり。

5/13 ●朝は外で集まり。突然強い突風がやってきたので
即座に風を拾う事にする。大きい布やバルーンにて。
素材は偶然が面白い。いきなり異次元に行ける。

6/2 ●感触の違いを感じる。部屋で普段触れない物から。

いぐさ、発砲スチ、農業用シート各種、むしろ、
私の髪の毛の筆。
6/23 ●素麺流しセットでそれ以外を流します。遊具を
やぐらにし、少々曇天にて、BGMはレゲエ流し。
流し素麺を体験した後の活動。ずれる視点。
7/28 ●恒例の年間行事ガチャガチャブルーは今年も盛況。
歓声と共に皆は水面へまっしぐらなのでした。

8/11 ●プラネタリウム制作からの続きで、トンネルや穴。
壁画が混ざっての建造物作りが進む。所狭しの空間に
年長児がひしめき、未完の味わいに浸る。

8/18 ●泥遊びに熱中の2歳児の傍に手足が

グチャグチャなので、壺の太鼓でドンドンな音触りを入れる。穴に泥水を入れて遊ぶと音色がまた変わる。
9/1 ●0歳児にハイハイ促進や部屋の上の空間を意識する様な案をとの事で。テグス付コップで誘う。上から二つユラユラさせるとその間を手がウロウロする。

9/8 ●マイカーに絵を描く。初マーカーで描き描き同じ色を持つと嬉しい。消えた（現れた）の感嘆繰返す。

雨の翌日の園庭は溝が沢山できる。
それをなぞって絵を描く抽象でも具象でも連鎖して皆もあちらこちらに描いてゆく。



さくら伏石保育園

ゆめの巣づくり

ひんちゃん
松尾 由美 芸術士

心の底にあったみんなで1つのモノづくり。
山鳩の巣作りをみながら、これだ!と思いつきずっとやりたかったものとして温めていました。
ひまわり組さんたちと、鳥の巣の希望がかないます。
みんながはいれる巣。『それじゃあはじめようか?』

それを乾かす為、横にしたまま廊下まで運んでいると、
「目が覚めたらいかんけん、そっとそっと…」
「ここではしばらく、やさしいにねさせとこう『えっ?』
ひまわり組さんたちと、鳥の巣の希望がかないます。
よお寝て、いま夢みよるから、しい~」
夢見る樹が誕生した瞬間のお話です。
大枝をたくさん手作り。「こんなにいっぱいやのに~」
からだ全体を使って、ものづくりをしている大作業。
子どもたちは職人さんのように真剣でした。
「喜ぶで~絶対」その目標へと枝を針金でとめました。
何度も何度も落ちてくる枝と格闘すると
組み立てた巣に大喜びすると
やさしい瞳で燕をエスコート。
いい夢が見られるよう、ふわふわ綿もお空の色で染め
保育所での暮らしの中にみんなの案を取り入れました。



はつね 初音保育所

「芸術」という言葉の意味

ルカ・ローマ 芸術士

LUCA ROMA

E' oramai mezzo anno che di settimane in settimana giochiamo e cresciamo insieme. Grazie alla disponibilità e professionalità di tutto lo staff dell'asilo il mio compito di far fare esperienze sempre diverse ed interessanti ai bambini attraverso l'arte risulta più semplice ed efficace. Come sempre il difficile rimane come proporre nella maniera giusta per il gruppo di bambini con i quali si è adattare il proprio stile e idee al tempo a disposizione e soprattutto alle loro possibilità. Ancora adesso a volte mi sorprendo di come basta poco per creare un gioco divertente ed intenso con un soggetto/oggetto di tutti i giorni ma presentato in una forma diversa o in un contesto diverso. Certo ancora adesso alla fine delle giornate in asilo rimane la critica che si fa a se stessi, dicendosi: "Ah! questo avrei dovuto farlo così, quello era meglio farlo dopo, questo meglio prima, ..." etc, etc. In questo contesto il significato della parola "Arte" ha un valore molto più vasto e dai confini poco definiti dove la comunicazione di tutti i giorni, anche la più normale, rappresenta una fonte di gioco e crescita insieme.

毎週毎週子どもたちと一緒に遊びつつ成長してあつという間に半年が過ぎました。保育のプロの先生達のサポートのお蔭で【芸術を通して、子どもに新しい経験をさせる】という自分の課題が無事出来ているかなと思います。多分それは先生や他の芸術士から言われるであろうダメだでもやっぱり、時間内に子どもたちのスタイルに沿わすようにな、何と言っても子どもたちの能力に合わせて同時に子どもたちのグループに何をどんなふうに提案するか、というのは、まだまだ難しいです。子どもたちと過ごす中で、新しいゲームが出来てしまうことに今でも少し驚くことがあります。身近な事やものの見方を変えるだけ全く新しい、新鮮なものが生まれます。

もちろん今でも園での1日の終わりには自分自身にダメ出しせします。「ああ、あれはこうしたらよかったです、これはあつちの方がよかったですのに」などなど。

多分それは

ダメだ

ダメ



はやし 林幼稚園

ことばひろい

まつの れいこ
松野 礼子 芸術士

今年から活動が始まった林幼稚園。初めて会った時から子どもたちは笑顔で迎えてくれた。「まっちゃんです」と自己紹介をするとニコニコ、クスクス。活動2回目の朝に、私が車から出でるとペランダから「まっちゃん～！」と大きな声で呼ぶ声。笑顔で大きく手を振って迎えてくれてありがとう。遊戯室で活動の準備をしていると女の子が来て、「まっちゃんは、なになりたいん？」
「う～ん・・・なんやろ、何になりたいん？」
「ふくのデザイナー」「なんで？」
「アイカツでね、かわいいふくみてね、つくりたくなったん」「ほ～すごいね」

その会話を聞いていた別の女の子が「でも、かわってしまうんじゃないん？」
「いいんで、なんかいかわっても」
なりたいものは何回変わってもいい。そうだね、自由なんだ。
保育室での遊びの時間。ずっと来て「ドラえもん」と言う男の子。「？」と思っていると、今度はそれを首の下に。ピーンときて「ドラえもんの鈴！？」と聞くと「うん」と頷く。本当にそっくりな形をしてる。(写真1)
映像で遊ぼうの日。ライターの火の映像に手を触れると「あつかった」「やけどした」(写真2)。寝ころんで星空の映像を見ていたら流れ星。「まほうつかいになれますように」

両手を合わせてそっと呟いた声。いつだって子どもたちは本気。もっと子どもたちの声に耳を澄ませ、いろんな言葉を拾いたい。
(写真3)「ズボンできた！」
(写真4)布で遊ぼうの日。巨大な縄引きが始まった。
(写真5)ミラー・ポールの光を掴まる。
(写真6)エアードームの中でみんなでゴロン。
(写真7)鏡を見ながらペタリ。
(写真8)親指と「おなじいろ」
(写真9)「そらとぶじゅうたんみたい」
(写真10)エアードームの中。思わずジャンプ。



かわ おか 川岡幼稚園

それぞれのたのしみかた

いけだ さち
池田 早智 芸術士

「みて！」と朝一番に元気な声。ニコニコと手にしている虫かごにはアマガエルがたくさん！！今日はさっちゃん先生も手伝ってよ、と雨上がりのカエル探し。他にもバッタや青虫、コオロギと生き物大好きな子どもたち。毎回その虫捕りの情熱に驚かされる。

■かっぱの子どもたち

子どもたち全員で水あそびの日。ボディペイントのコーナーも、じわじわと熱を帯びてきた。

「汚してもいいんよ。」と言われても、なかなか大胆になれない子どもたち。1人がそろへっとタライの中に足を入れる。絵の具とボディソープ、なんとも言えない感触にきや一つ

と楽しい声が上がる。この辺りで火がついた！腕や顔が力ラフルな子どもたち。シャワーや水鉄砲で色を溶かしてまた塗るあそびを繰り返す。

「ほんものの かっぱに なったみたいや。」

手は鮮やかなみどり色。絵の具と泡で出来た水かきは、

風に吹かれてすぐに消えてしまう。瞬間の大変身。まだあ

まり話したことのない子どもたちも、いろいろな気づきを教えて

くれて、一緒にドキドキした1日だった。



つるうち 弦打幼稚園

茜染め

たにゆき
谷由貴 芸術士

子どもたちに専門分野の体験を…ということで今年も植物染料のインド茜を使った染色、ランチョンマットの制作をすることになった。まず輪ゴムで不織布を括り防染し模様をつける作業、やってもらうと子どもの中には輪ゴムを使った経験が無い子も多数居て…私の中で出来てあたりまえと思っていたことが経験しなければ出来ないという認識に変わった。仕切り直し…咄嗟にどう教えると出来るかを考え「指3本に2重にした輪ゴムを掛けそれをもう一方の手で摘んだ不織布に引っ掛け引っ張り括ってみよう」と実際に作業を行なながら伝えてみた。一生懸命私の手元を見つめる子どもたち、一齊に手を動かし始めた! 出来る子が増えた!

出来ない子は表情が曇る…個人差はあってあたりまえ。先生たちと手分けして1人ひとりみて回りながらフォロー、早く出来た子には戸惑っている子を手伝ってもらった。全員が括り終えた頃あちこちからお腹減った～!の声。全力で取り組んでくれた人生初めての経験もこれから繰り返し行うことで当たり前になって行くのだと微笑ましい。染色作業は染料が植物の根であること、媒染剤のみようばんの役割などを説明し、各自染料に投入してもらった後は微妙な色の変化を観てもらい、植物に対する意識を高めて貰う為作業を見守ってもらった。

子どもたち、一齊に手を動かし始めた! 出来る子が増えた!

出来ない子は表情が曇る…個人差はあってあたりまえ。染め終えて括っていた輪ゴムを解く作業でみせる真剣な眼差し、解き終えて広げた時の表情は初めてみるものへの感動と満足感で輝いていた。先を想定できることはつまらない…子どもが羨ましくなった。

後日染めたランチョンマットを使って給食。

既製品が溢れる世の中、自分で制作したものを実際使った経験が、ものはどうやってつくられているかを意識するきっかけになれば…と願っている。



きなし 鬼無幼稚園

「ようちえんで、なにするん?」

すぎやま あゆみ 芸術士

【音について】では、耳を澄ませてみようと、普段の音・自然の音 etc.から投げかけて、動きや静けさを考えてみます。子どもたちに、暮らしの中の音に対して意識させてみます。アコーディオン・ヴァイオリン・鳥笛・唄の曲を再生する。目を閉じて考える～幾度か繰り返すうちに音について、身体に染み込む～すぐ後に、勝賀山からビューと風が吹いてきて「かぜが、きもちいね」という体験につながります。～音叉を鳴らすと音の動きを捉え、線などで表現する～ピアノの下前板を取って弾く…皆、夢中になる～ヴァイオリンの弦に触れ、音の変化に気がつく…顔がふにやつとなる～アコーディオンの蓋を取り、リードの部分・蛇腹をみながら

空気を送る…震えてピロピロと動いているところを発見～紡ぎ機で羊毛を紡ぐ音…カタコトカタコトに耳を傾ける～そして、夏休み前・・・ついに形になる活動となりました。～絵に描いてゆく。楽器を囲みコンテで表現する。

【泥んこ遊び】では、“田んぼに入り、泥を味わった後、土粘土制作～汚れるのが苦手な男の子も、田んぼで泥遊びを思いきり楽しむことで克服しました。”

そして…

子どもたちそれぞれの塩梅をみながら、2・3学期へ。秋の素材での紙漉きや糸紡ぎを重ねてゆきます。



木太幼稚園

おおた
太田 紘美子 芸術士

木太幼稚園のみんなで、土粘土で素材体験をした。足で踏みつけたり、水を掛けたり、感触を楽しんだり、粘土と対面する。

今日は雨。園庭の土もどろどろぐちゃぐちゃ。
「水で濡らすとツルツルするよ。」田んぼの中みたいにヌルヌル足が取られてすってんこりん。
「雨が降っているから、雨粒を作ったよ。」
踏んづけるのがとっても楽しい。足でひたすら踏んでたら、足の形に穴があいていったよ（写真4）。

今日は晴れ。水分が抜けて形が作りやすくなった粘土。みんな昨日より粘土と仲良くなっていたね。容器から出したとき、ねちよねちよだつた粘土がお日様で乾いてカチカチになっている（写真2）。たらいの中に入って居場所を見つけた子。粘土の上に寝転がってお布団！粘土に馬乗り！粘土との距離がとても近くなり、造形へと広がっていく。高く積んでみたらどうだろう。いっぱい重ねて高くしてみよう（写真3）。つなげたらどうだろう。池と池を道路でつなぐよ。途中にお山もつくろう。車やトンネルを作っている子たち。お城を作っている女の子たち（写真1）。

「粘土って重いね。」身体を使って大きな粘土の塊をみんな

で運んでみる（写真6）。

「凸凹に押し付けると、模様が写るよ。」発見！（写真5）

子どもたちは素材をもっと魅力的なものにしてくれる。

「粘土さんは、遠いお山から来たんだよ。」

「自分で歩いて来たん？」

「自分

で

歩く

よ

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う



こくぶんじほくぶ 国分寺北部幼稚園

動いたり、創ったり。

かなざき よういち
金崎 洋一芸術士

朝、園の中から聞こえてくる元気な声。
教室や外で、わいわいと遊んでいる子どもたち。

「おはよう」と園に入ると、子どもたちに誘われるままに、輪の中に入つて、1日が始まります。

身体を動かすのが好きな子どもたちと、一緒に身体を動かしたり、子どもたちの発想から何かを創ってみたり。

「遠足の思い出は?」と聞くと、「お弁当」「水筒」「デザート」「お菓子」など、楽しかった思い出を教えてくれます。

じゃあ、その思い出から、踊りを創ろう。こうしよう、ああしよう、みんなでアイデアを出して、出来た遠足の踊りは、とても楽しい!

新聞紙を落とさないように動いてみてと、新聞紙を渡すと、手、頭、足、体のいろんな部分を使ってみたり、立てるだけじゃなく、座つたり、ブリッジしたり。1人ひとりが考えだした新聞紙を落とさない方法は、身体いっぱいを使っていてカッコイイ!

野菜の事を教えて」と言うと、子どもたちが、園で育てた野菜の形、色、手触り、食感など、見た事、感じた事をたくさん教えてくれます。じゃあ、教えてくれた事で、野菜の歌を創ろう。

その言葉いいねと、子どもたちと作詞した野菜の歌は、ちょっと不思議だけど面白い!

肩を組んでスキップ、手を繋いでゴロゴロ、高く跳んでハイタッチ、1人で動くのも楽しいけど、誰かと一緒に動くともっと楽しい!

野菜の事を教えて」と言うと、子どもたちが、園で育てた野菜の形、色、手触り、食感など、見た事、感じた事をたくさん教えてくれます。じゃあ、教えてくれた事で、野菜の歌を創ろう。

その言葉いいねと、子どもたちと作詞した野菜の歌は、ちょっと不思議だけど面白い!



こくぶんじなんぶ 国分寺南部幼稚園

今を楽しみ、今に生きる子どもたち

ふーみん
ブーミン 芸術士

今年、初めて芸術士をさせていただきました。慣れない事の連続で、先生方や子どもたちに助けられながら、活動をさせていただきました。

私の専門はイラストレーションなので、幼稚園の先生の描画活動と重なるところがあり、どう子どもたちと芸術士として活動すれば良いか、ずいぶん悩みました。そんな中、子どもたちは活動を楽しんでくれたので、本当に感謝です。先生方もお忙しいスケジュールの中、活動を見守つてくださいました。

そして、なんといっても、夏にしか出来ない、ボディペインティングは本当に楽しそうに子どもたちは活動していました。「ぼく、みどり星人になった」「かえるになったよ」と、全身み

どり色をぬりたくった男の子。顔まで絵の具をぬり、楽しんでいた女の子。笑顔がいっぱい。生きてるのって楽しい!

そんな事を子どもたちは、全身でメッセージを発信していました。

子どもたちの、今を楽しみ、今に生きる事を大切にしながら、楽しい発見や驚きのある活動、出来たらいいなあと考えながら、活動をさせていただいています。子どもたち、先生方、よろしくお願ひいたします。

『めぐみせんせい ドラエモンみたい かみのけもじしいしな』
いつもカラフルな布や絵の具 大きな紙、皆が遊び材料を持って現れるめぐみ先生。

子ども達は「めぐみ先生が家から持て来てる」と思っているので、何でも持ててくるめぐみ先生を「ドラエモンみたいなオーハーい人と尊敬の眼差しで見ているよう。

トレードマークの金髪も、女の子たちの憧れです。

「先生の髪、何で白いん」と不思議そうに言うので、「あれは金やで 金の髪や」と言うと、「すげえー！」と大盛り上がりでした。

西春日保育所

『まちゅん、きょう（ぼくのへや）くるん？』

毎週木曜日に幼児クラスを順に回ってくれる芸術士さん。子どもたちは、先週隣のクラスだったから、次はぼく番だ!!と首を長くして待っています。そのくらい、芸術士さんの活動は魅力的です。

絵の具を身体中につけたり、紙やシール、毛糸等いろんな素材を組み合わせて製作してみたり、活動そのものもダイナミックかつ繊細で、その表現に対する言葉かけが、よりもたらす刺激的で、「もっと!もっと!」と表現の意欲をかり立てているように思えます。

私たち保育者も、次回はどんな遊びか探り広げられるかと、芸術士さんが来られる日も、首を長くして待っています。

西光寺保育所

『きもちわるかたけど、おもしろかた』

初めて触れた土粘土。柔らかいベチョとして感触に「うわー」という表情を浮かべる子どもたち。手が汚れるのが嫌いで手を洗いたいと言う子が多く、保育者が「洗ったらのくから大丈夫だよ」と声をかけ序々に慣れていました。足で踏んで感触を楽しんだり、土粘土を持ち上げて投げたり、どんどんダイナミックになり、しきつも始めたんだからどんどん屋さんか女まとペタペタたいて楽しんでいたのが「ちつきみたい」と言う声でちつきに変わったり、色々な所でお遊びが広がっていました。終わってみると「まだあそびたい!」との声が。今年5回行った土粘土、最後まで夢中にならず楽しんだ夏になりましたのあそびでした。

川添保育園

『それも いいね。』

今年はカナン保育園にも芸術士の先生が来て下さるようになりました。4歳児をメインに関わって下さっています。

子どもたちが芸術活動をする中で、担任保育士の心に留まった言葉が「それも いいね。」でした。回数を重ねる度に聞こえてきたそうです。きっと、自分の作品にも満足して、また、友だちの作品も良いなあと感じたのだと思います。互いに認めあう姿が見られ、芸術活動を通して、心の成長を感じています。

カナン保育園

『わあーおばけみたい！！』

光の空間での活動に参加した時のこと、真っ暗な空間にいろいろな光が動いている幻想的な光景に子どもたちも一生懸命手を伸ばしてつかもうと必死です。ミラー・ポールに黒画用紙をかざすと天井に映った光の形が変わり、それを見た子が「わあーおばけみたい!!」とびっくりしていました。そしてまた暗転にすると、今まで大声を出していた子どもたちもシーンと静まりドキドキ。。。その時一人の男の子が先生の所にかけより「どうにかしてくださいよー」と一言。職員間で大笑いした一コマでした。

高松南保育園

『うわ、 すご、 かわいい！』

「せんせふはよー 今日「ふにするん？」

水曜日、楽しい一日の始まりです。

和光保育園

『まほうみたい』

毎週金曜日、ふじ組の子どもたちは、この日をいつもわくわくしながら待っています。「池田先生ー！おはよー！」元気に挨拶をし、先生が来たことを満面の笑みで喜ぶ姿に担任の私も思わず嬉しい気持ちになります。

「池田先生は、まほうつかいみたい。」「だってさ、すてきなものを持ってこてくれる。」そんな言葉を話すAちゃん。貝がらにペイントをするのも、様々な廃材が、生き生きと輝いていくのも、よくのびる粘土も、子どもたちにとってすてきなまほう。そんな、まほうの時間をいつも楽しみにしています。

若葉保育園

『おまつりみたい』

春のある日、先生がマーペリングの材料を持って来てくれ、子どもたちと一緒に楽しみました。マーペリングでピンク色に広がる画用紙を見ながら「シャボン玉みたい！」と大盛り上がりし、乾くのを待ってから、クレヨンで上から好きな絵を描いていました。思い思いに描いた絵を部屋中に吊るしてもらい、「おまつりみたい！」とビヨンビヨン飛び跳ねて喜んでいる様子は、お家の人に連れて行ってもらった縁日を耀しそうに思い出しているようでした。

偶然にできたもの、作りたいと思ったものが形になっていく過程を楽しみながら、たくさんのお不思議、驚き、面白さに出逢っています。

今里保育所

『にじいろ ふうせん』

ビニール袋に絵を描き、68名分をつなぎ遊舗室保育室の柱を木に。

初音保育園

『にじいろの木やあ！』

初めて茶色い「木」をイメージしていましたが、ある日びんちゃんが、子どもたちの虹が好きだという声を拾ってくださり、枝ごとに色の異なる「虹色の木」をつくることとなりました。

4ヶ月という長い時間をかけ完成させた木ですが、さまざまな素材と技法によりいつも新鮮な気持ちで熱中していた子どもたち。完成した時には、「うわあ～虹色の木や！」と喜びと満足感に満たされた様子でした。

さくら伏石保育園

『かしちゃんおろとさつくたん』

朝、ちう兒めろん組のひひきちゃんが大車両に色画用紙で作ったかばんを持っています。すいふん便いふだりにくに見たひれではいますが、中にいはい自分で作たカードを入れています。「かしちゃんおろとさつくたん」と友だちにみせていました。

こぶし花園保育園

『まほうみたいやな！』

小規模園の為、他のクラスがやっていると見たり、他のクラスの子どもが作品を見せに来たりすることが日常的に行われている。そんな中、各クラスで新聞紙を丸めたり、ちぎったりして遊んだ後、年長児がポツリと呟いた。「まほうみたいやな！」素材は同じでも様々な形に姿を変える新聞紙に子どもからの一言がすぐ印象的であった。

れんげ保育園

『おばけとおばけとおばけとおばけ』

絵を描く事がそれほど好きではなかったKくんが初めて生き生きと夢中で描いた時の言葉です。

「何のおばけ描いたん?」「えっとねー おばけとおばけとおばけ!!」と一つずつ指さしながら興奮した面持ちで教えてくれました。

Kくんが『絵を描く事って楽しい』と気づいた瞬間に立ち会えたのです。

芸術士さんは子どもが描き出す「絵」を受け入れ、認めてくれます。子どもにとって本当に嬉しい事、自分を信じて描いています。

城東保育園

『うわあ～色が変身した!! もっとやりたい』

3歳児の子ども達にとって初めて使うパステル。色を塗った後、手でこすり色が広がっていくのを喜んだり、

色と色が混ざって変化するのを見て大発見のように伝えたりしながら楽しんでいました。

川岡幼稚園

『ゆりこ先生、今日、何するん?』

造形活動がある日。子どもたちはゆりこ先生と出会うと「今日、何するん?」「楽しいことするんやんな！」とうれしそうに会話しています。溶かした絵の具を凍らせた「氷の絵の具」で絵を描いた時間では「うわー！」「すごい！」と、目をキラキラ輝かせながら、氷の冷たさや絵の具の感触を楽しんでのびのび描いていました。

木太幼稚園

『くるん?』

砂とエの違いに興味を持った子どもたち。触ったり、ルーペで見てみたり、匂いを嗅いでみたり…

ひと、ひとりの子が呟いた。「なめてみたらわからかも」その言葉に全く躊躇することなく、エをひとつみみるとペロリと芸術士さん一瞬 時が止まったような静寂が訪れた後、「え～!!」「村井さんが土食べたー！」と大騒ぎする子、唖然とする子。

そう、イタリア発 高松市芸術士 ルカ・ローマさん

チエンソーラ、大きな丸太、絵の具、段ボール、ろうそく…今日は、何をしようか?

前田幼稚園

『稲、イネ、いーね!』

園で栽培している稲をもとにクラスみんなで歌を作り、「稻、背が高く、まっすぐ、イエイ！」とラップ調のリズムにのって表現遊びをしました。金ちゃんのしなやかな動きや掛け声に合わせてノリノリの子どもたち。「あーめ、今やんだ、イエー！」など自分たちの感じたことを歌や動きにするおもしろさを味わい、互いに友だちを認める姿につながっています。

国分寺北部幼稚園

『うわー、花火みたい！』

アカネ染めて、ランタンマットを作るにてみて。塗料から出して布を水洗いでふがら、ゴムをほじき 子どもたちよ ウカウカ・ドキドキ!

みんなで一緒に広げると…「うわー、花火みたい！」「きれいー！」などと見てみよう!など話をしている。

みんなの目は素朴に染められたランタンマットと同様に、キラキラ輝いていて、

弦打幼稚園

『先生が魔法をかけてくれるんやろ?』

芸術士の先生と、Tシャツの絞り染めに挑戦!いよいよ仕上げの時「岩佐先生が魔法をかけてくれるんやろ?」と出来上がりに期待が高まる子どもたち。いつも皆を驚かしてくれる芸術士の先生の手法は、子どもたちにとって不思議な魔法のようです。出来上がった世界に1つだけのオリジナルTシャツに大喜びの子どもたちでした!

川東幼稚園

『うわあ すごい おおきいねー』

芸術士さんが持ってきてくれた大きくて長い用紙を見ての一言!描いてみたい、大きいくらいに描きたい、という思いがたくさんあったようですね。今年度はじめての芸術活動で、6クラスで活動をしています。表現をする楽しさや面白さを味わっている子どもたちです。

国分寺南部幼稚園

『きこえたよ!」「どんなおとかな?』

風の音、小鳥のさえずり…鬼無の豊かな自然。自分や友達の鼓動、身体や物…日常生活からの発見。アコーディオンや音叉、ヴァイオリンやトランペット etc…様々な音との出会い。音や響き、それらが生まれてくる様子を全身でとらえ、じっくり楽しんできました。

そして…全身を使って、線や形で、色で…自分なりの表現へつながっていました。

鬼無幼稚園

む
よ
う
な
に
す
る

参加芸術士

村井知之（パフォーマンス）	すぎやまあゆみ（洋画・染織）
谷由貴（染織・美術家アシスタント）	Frida(うた・ピアノ)
樋本美千子（日本画）	ルカ・ローマ（彫刻）
太田絵美子（彫刻）	長野由美（造形・インсталレーション）
松尾由美（洋画）	金崎洋一（ダンス）
松野礼子（絵画）	鈴江利浩（イラストレーション）
カタタチサト（身体表現）	三木優希（コンテンポラリーダンス）
美濃花織（イラスト）	ブーミン（イラストレーション・絵本）
平川めぐみ（ファッショングデザイン）	佐々木あづさ（ハンドメイド）
池田早智（日本画）	岩佐百合子（木工芸・デザイン）

これまでの活動

平成21年11月	高松市内保育所への派遣がスタート
平成22年7月	うみあかりプロジェクト/瀬戸内国際芸術祭2010
平成22年8月	第1回芸術士派遣事業活動報告「芸術士のいる保育所」展/高松市美術館
平成23年7月	高松琴平電気鉄道株100周年記念企画「コトデン×コドモテン」
平成24年3月	第2回芸術士派遣事業活動報告「芸術士のいる保育所」展/高松市美術館
平成24年4月	派遣先が保育所・こども園・幼稚園へと広がる。
平成25年3月	第3回芸術士派遣事業活動報告「芸術士とこどもたち」展/サンポートコミュニケーションプラザ
平成25年10月	第4回芸術士派遣事業活動報告「芸術士とこどもたち」展/高松市美術館
平成26年9月	自転車おしてくれてありがとうプロジェクト/高松丸亀町商店街
平成26年12月	第5回芸術士派遣事業活動報告「3,704色こども」展/丸亀町レツツホール
平成27年12月	第6回芸術士派遣事業活動報告「きょうなにするん」展/高松市中央図書館

参加施設

瀬戸内保育所	西植田保育所	カナン保育園	初音保育所
扇町保育所	浅野保育所	高松南保育園	前田幼稚園
宮脇保育所	国分寺南部保育所	和光保育園	林幼稚園
福岡保育所	牟礼保育所	若葉保育園	川岡幼稚園
鶴尾保育所	田井保育所	今里保育所	弦打幼稚園
太田保育所	高松保育園	みのり保育園	鬼無幼稚園
木太保育所	敬愛保育園	城東保育園	木太幼稚園
古高松保育所	西春日保育所	こぶし花園保育園	川東幼稚園
屋島保育所	西光寺保育所	れんげ保育園	国分寺北部幼稚園
林保育所	川添保育園	さくら伏石保育園	国分寺南部幼稚園

発行日 平成27年12月4日
 発行所 高松市健康福祉局こども未来部こども園運営課
 〒760-8571 香川県高松市番町1丁目8-15
 TEL 087-839-2358
 FAX 087-839-2360
 NPO 法人アーキペラゴ 芸術士事務局
 〒760-8571 香川県高松市木太町 2705-1 1F
 TEL 070-5351-7708
 FAX 087-880-2674
<http://geijyutsushi.archipelago.jp/>
 制作 芸術士
 編集 太田絵美子、岩佐百合子、佐々木あづさ、松野礼子、鈴江利浩
 本書記載の写真・文章等の無断使用を禁じます。

可 能 性 の 育 み
芸 術 士[®]